

皆さん、おはようございます。

1, 2年生のみなさん、進級おめでとうございます。

振り返ると、今年度も、皆さんの学校生活は、臨時休業や部活動の原則休止、行事の延期など、コロナ禍によって大きな影響を受けました。心配や辛いことがたくさんあったと思います。しかし、そのような逆境の中でも、皆さんは、授業に部活に行事に真摯に向き合い頑張ってきました。私たち教職員も、皆さんの姿から多くの元気をもらいました。皆さんのこの1年間の頑張りに大きな拍手を送りたいと思います。

さて、春は出会いと別れの季節といいますが、本校でも、3月1日に第74回卒業証書授与式があり、74期生356名が本校を巣立っていきました。厳粛で晴れの門出にふさわしい卒業式でした。また、3月9日には令和4年度高校入試があり、492名が本校に出願しました。昨年度とほぼ同じ倍率、1.37倍の難関でした。昨日の合格発表では、ボードで自分の番号を見つけた合格者から歓声が上がり、喜びの輪が広がりました。とてもうれしそうな笑顔が印象に残っています。77期生には、その時の気持ちを忘れずに頑張ってもらいたいと思っています。

今日は、最近少し気になっていること、心配していることについて話をしたいと思います。それは「あいさつ」についてです。私が2年前に本校に赴任した際、「とても爽やかな挨拶ができる高校」というのが暇高の第一印象でした。しかし、残念なことに、最近、先生方から、「今の生徒は以前に比べて挨拶ができなくなった」という声がよく聞かれます。もちろん、今でも大きな声でとても爽やかな挨拶をしてくれる生徒がたくさんいます。しかし、一方で、しっかりと挨拶ができない生徒が増えているように私も含めて先生方は感じています。

本来、「あいさつ」は自主的にするものであって、強制されるものではありません。「あいさつ」が苦手な人もいます。皆さんはどうですか？一度自分自身について考えてみてください。

人は誰でも誰かに認められたいという「承認欲求」を持っています。「承認欲求」には、何かをして認められる「行為承認」と、そこに居るだけで相手に受け入れてもらえたと感じられる「存在承認」があります。「あいさつ」は、そこに居る人を無条件で認めてあげる「存在承認」の典型です。つまり、「あいさつ」は相手の存在を認めること、そして、自分の存在を認めてもらうことです。「おはようございます」「こんにちは」「ありがとう」その一言で、場の雰囲気は大きく変わります。そして、「あいさつ」のないところにコミュニケーションは生まれません。

皆さんは、これまで本校で、毎日の授業や部活動、行事、課題研究などを通して「伝えることの大切さ」を学んできました。その伝えることの第一歩になるのが「あいさつ」です。「あいさつ」は、言った方も言われた方も心が温かくなる魔法の言葉です。どうか皆さん、「あいさつ上手な人」になってください。そして、4月からは、良き先輩として、「とても爽やかな挨拶ができる高校」という暇高の良き伝統を後輩へしっかりと伝えてください。

4月から皆さんは階段を一段上がります。階段を一段上がれば、見える景色は変わります。より遠くまで見渡すことができます。しかし一方で、近くの景色、つまり自分自身のことを見失いがちになります。しっかりと、自分の弱点と向き合い、高い志を立てて頑張ってもらいたいと思います。特に、新3年生には次の階段はありません。あるのは、進路という新しい扉です。受験は団体戦です。75期生がチームとなって、「希望する進路の実現」という扉をこじ開けてください。

新年度を楽しみにしています。